

ナメククリーン3の上手な使い方

かんきつ

1樹あたり約9g※を株元（半径1mの範囲内）に均一散布してください（※3kg/10a相当量）



株元から登ってくるナメクジ類やカタツムリ類を防除！



9gの目安

散布の際は手袋を付けてお使いください。

果実の重みで枝が地表面につきそうな場合は、薬剤が果実に直接付着しないよう、その周囲にやや広めに散布してください。下垂防止用の支柱を立てる場合は、支柱の地際部にも散布を行ってください。

かんきつを加害するナメクジ類とカタツムリ類の行動の違い

ナメクジ類やカタツムリ類は圃場の雑草の間や落葉等の残渣等の下に生息していますが、雨が降ったり、湿度が高くなると動き出し、樹上に登り加害します。

ナメクジ類の行動パターン



ナメクジ類は樹上に登りますが、乾燥に弱いので、陽があたって暑くなる前に生息環境に戻ります。

カタツムリ類の行動パターン



カタツムリ類は乾燥に耐える殻をもつため、昼間でも樹上に残り、活動条件がそろえば動き出します。

かんきつでの試験事例

＜オナジマイマイに対する効果＞

薬剤名	処理量 (/10a)	累積死亡率の推移 (%)			
		1日後	3日後	6日後	8日後
ナメククリーン3	1kg	0.0	6.7	75.6	82.2
	3kg	0.0	22.2	77.8	100
対照薬剤A	4.5kg	0.0	13.3	64.4	71.1
無処理	—	0.0	0.0	0.0	0.0

住化テクノサービス株式会社（2013年）
試験場所：奈良県宇陀市榛原安田 現地圃場（露地）
供試品種：かんきつ（宮川早生【5年生】）
園芸用ポット植え（15号相当）
区制：1区1株3反復（15頭×3反復＝45頭放飼）
試験方法：平成25年10月22日に薬剤をポット内土壌表面に株元散布。対照剤はポット内土壌表面の5か所にまとめて配置。
調査方法：苦悶・死亡個体数を調査。

日付 10/22 10/23 10/24 10/25 10/26 10/27 10/28 10/29 10/30
降水量 0.5 13.5 1.5 33.5 22.5 0.0 0.0 0.0 0.0(mm)

＜チャコウラナメクジに対する効果＞

薬剤名	処理量 (/10a)	累積死亡率の推移 (%)			14日後 被害率(%)
		3日後	7日後	14日後	
ナメククリーン3	1kg	75.0	80.0	91.7	2.2
	3kg	93.3	96.7	96.7	0.0
対照薬剤B	4.5kg	70.0	73.3	78.3	2.2
無処理	—	0.0	0.0	0.0	4.4

長崎県農林技術開発センター（2013年）
試験場所：長崎県大村市鬼橋町 センター内
供試品種：かんきつ（岩崎早生【6年生】）
区制：1区1株3反復（20頭×3反復＝60頭放飼）
試験方法：平成25年7月24日、所定量を株元に均一に処理。
調査方法：放飼したチャコウラナメクジの死亡状況を調査。
また、1樹当たり30葉について、ナメクジ類による被害葉数を調査し、被害率を算出。

施設内での試験のため、降雨の影響なし。

いちご

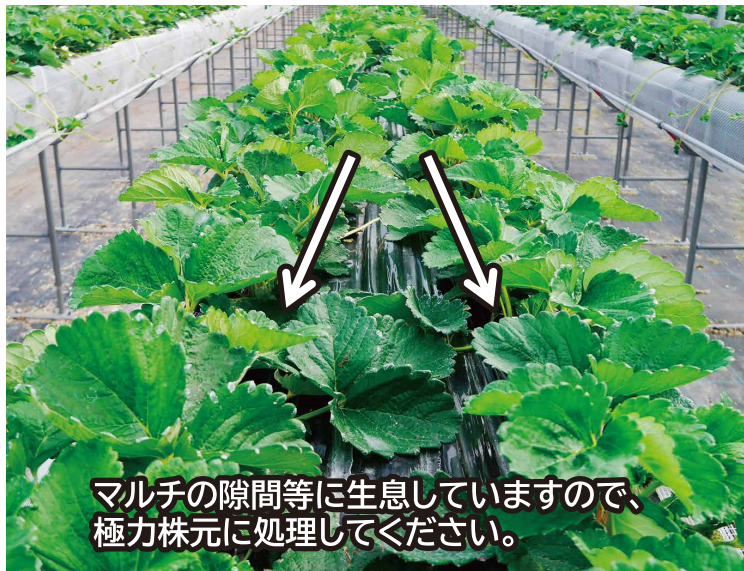


定植後の処理

- ・定植時に持ち込んだ個体を防除。
- ・定植後～マルチ被覆前に処理してください。

収穫期間中の処理

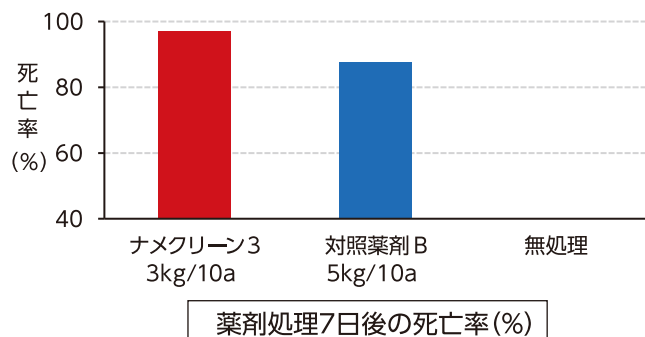
- ・株元のマルチの隙間や、マルチと倒れた葉の間に隠れている個体を防除。
- ・粒が側面に落ちないように、株元処理してください。



ナメクリン3の試験事例

株元のマルチの隙間等に潜むナメクジ類を防除！

チャコウラナメクジに対する効果①



和歌山県植物防疫協会橋本試験地(2013年)

試験場所：和歌山県橋本市高野町伏原

発生状況：多発生(放虫)

供試品種：いちご(さちのか) 生育初期：本葉3～4枚

区制：1区1㎡(1×1m)枠試験12株3連制

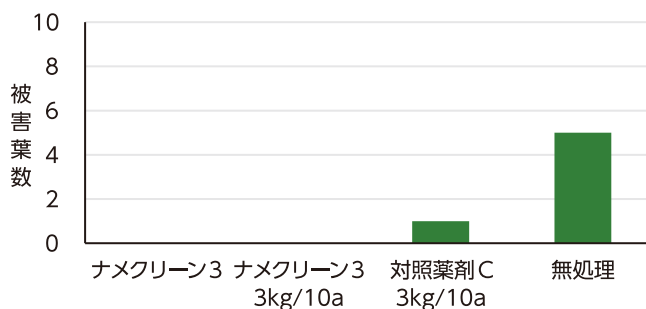
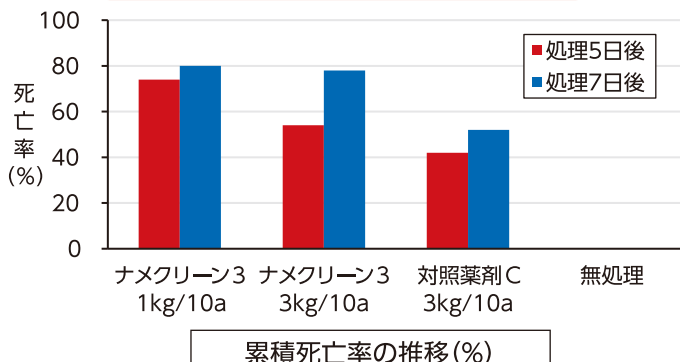
試験方法：平成25年10月5日に所定量の粒剤を株元散布。対照区は所定量を株元に配置。

調査方法：地表面の死亡個体(逐次除去)数を調査。敷き藁下の生存・死亡個体数は最終日に調査。

その他：逃亡防止のため木枠上部に1mm目の防虫ネットを張り、ナメクジの生息場所として枠内2辺に敷き藁を設置。また、枠上部1.7m高に寒寒冷紗を張り遮光。

※死亡率={累積死亡数/(累積死亡数+生存数)}×100

チャコウラナメクジに対する効果②



日本植物防疫協会茨城研究所(2013年)

試験場所：茨城県牛久市茨城研究所施設園場

発生状況：甚発生(放虫)

供試品種：いちご(とちおとめ)

プランター植え：2013年10月16日展開複葉3～4枚程度

区制：1区0.22㎡(0.35×0.63m)5株5連制

プランター(35×63×26cm)あたり5株定植

試験方法：2013年10月18日、ナメクリン3を所定量株元に散布。対照剤は所定量をまばらに配置。薬剤の処理量は研究所のいちご栽培様式(畝間1.1m、株間0.3m、2条植え)から5株あたりの処理量を算出。試験期間中、供試虫の逃亡を防ぐため、各区のプランターを不織布を用いて密閉し、ハウス全体を寒寒冷紗で被覆。

調査方法：<虫数>各区の死亡虫数、苦悶虫数、生存虫数、不明虫数を調査。その際、死亡虫は区外に除去。

<被害>各区全株について、被害葉数を調査。被害は適宜肉眼により観察。

その他：処理直後にチャコウラナメクジを区あたり10頭放虫した。

セルリー

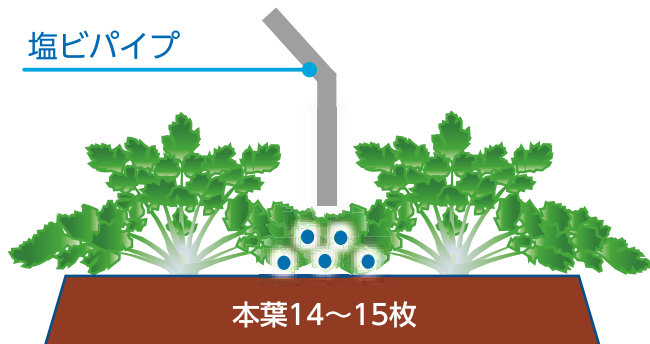


■ 異物混入に注意する！

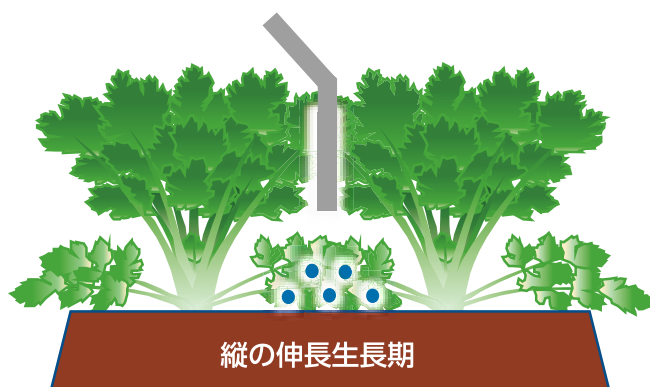
作物上から散布すると茎（可食部）の間に入り込むおそれがありますので注意してください。
塩ビパイプ等を利用し、下図のように株元に処理することをおすすめします。

■ おすすめする防除適期は本葉14～15枚から縦の伸長生長期にかけてです。

塩ビパイプ



本葉14～15枚



縦の伸長生長期

【敷き藁を敷いた栽培】

- 敷き藁がナメクジ類の温床になりますので、株元近くの敷き藁の上に散布します。



過繁茂状態になる前に
早めに散布しましょう！



キャベツ



はくさい



レタス

- 結球開始以降に作物上から散布すると結球部に入り込み、異物混入となるおそれがあります。
作物上から散布せず、株元に散布を行ってください。



アスパラガス

- 作物に直接触れないように散布を行ってください。



非結球あぶらな科
葉菜類

【非結球あぶらな科葉菜類の種類】

あざみな、あじみな、あぶらな、海野（莖葉）、大高菜、大山そだち、カーボロネロ、かぶな、かほくな、からしな、ケール、ケールッコラ、こまつな、さがみグリーン、さめきな、四川搾菜（莖葉）、たけのこたかな、千宝菜、タアサイ、体中菜、たかな、食べて菜、チンゲンサイ、チンゲンルッコラ、てごろ菜、なずな、なばな類「あすこ、アレッタ、おおさきな、太田かぶ、オートムポエム、大月菜、大野菜、かいらん、かきな、勝山水菜、くきたちな、ケールッコラ（なばな栽培）、こうさいたい、こまつな（なばな栽培）、さいしん、三景雪菜、四川児菜、たべたい菜、チーマデラーバ、チンゲンサイ（なばな栽培）、チンゲンルッコラ（なばな栽培）、摘菜花、つぼみな、なばな、のらぼうな、博多蕾菜、はくさい（なばな栽培）、はたけな（なばな栽培）、はなっこりー、みずかけな、めいけな」、のざわな、パクチョイ、畑わさび、畑わさび（根茎）、畑わさび（葉）、非結球はくさい「小倉はくさい菜、さんとうさい、しろな、たいさい、長崎はくさい、博多白菜、ひこしまはるな、ビタミン菜、ひろしまな、優愛菜」、非結球メキャベツ「プチヴェール、ミニベール」、べんり菜、みずな、餅菜、山形みどりな、ラファノブラシカ、ルッコラ、わさびな ※ 地方名を除く

- 圃場全体に処理を行う場合、作物の莖葉が生長してから散布を行うと生長点付近に薬剤が入り込み、異物混入となるおそれがありますので、2葉展開期までに散布を終えることをおすすめします。
作物が大きくなり、収穫3日前までに使用の場合は、外周部からのナメクジ類の侵入を防ぐことを目的に最端列の株元に散布してください。また、その際に莖葉の隙間に薬剤が入り込まないように十分留意してご使用ください。

【使用上の注意事項（各作物共通）】

- 作物上から散布することは避け、株元に散布してください。
- 作物が濡れた状態では薬剤が付着しやすくなりますので、作物が濡れていないことを確認してから散布を行ってください。
- 本剤は崩壊しにくく処方された製剤ですが、直接降雨に長期間あたると崩壊しやすくなりますので、降雨後に散布することをおすすめします。
- 雨よけハウスやシート下など、直接降雨にあたらない環境では、30～40日程度の残効が確認されています。
- 本剤は有機物を含む製剤であるため、散布後時間経過とともにカビを生じる場合がありますが、効果に影響のないことを確認しています。

薬剤の崩壊性と効果

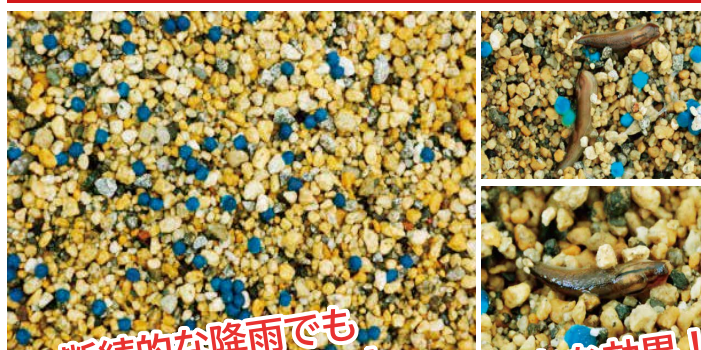
野外暴露後における粒の状態と効果①

薬剤処理時

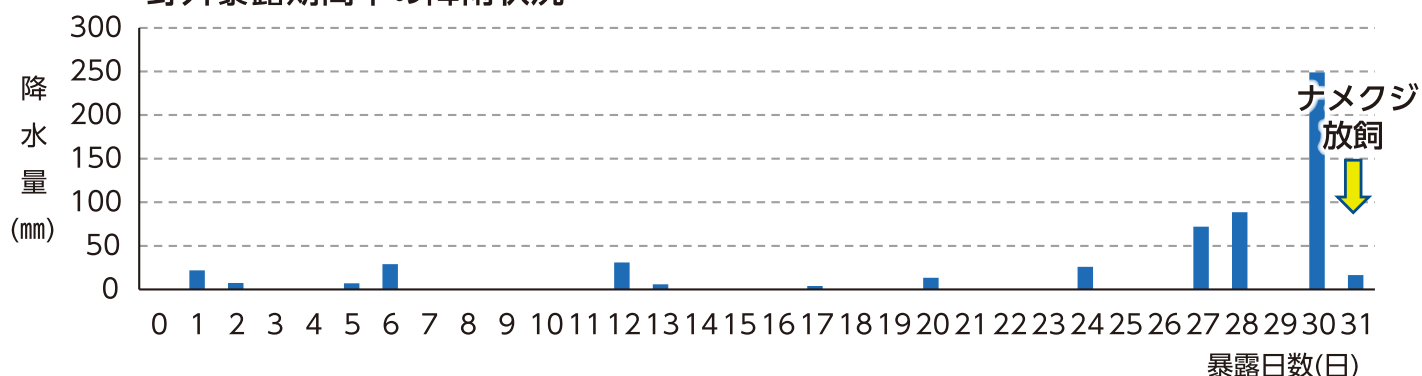


31日間
野外で
暴露

野外暴露後の効果 (ナメクジ放飼1日後)



野外暴露期間中の降雨状況



野外暴露後の粒の状態と効果② (かんきつ園のシート下散布時)



写真1



写真2

【写真1】

処理28日後のウスカワマイマイの死亡状況

【写真2】

処理43日後の薬剤を用いた薬効検討

(カビの生えた粒でも摂食し、効果が持続)

殺虫剤

ナメクグリーン3[®]

農林水産省登録 第23655号

有効成分：メタルデヒド 3.0%

殺虫剤分類

—

性 状：暗青色粒状

人畜毒性：普通物（毒物及び劇物に該当しないものを指すという通称）

規 格：500g×20、1kg×12、2kg×8

特長

- ナメクジ類・カタツムリ類を誘引し、摂食させて効果を発揮するベイト剤です。
- 有効成分のメタルデヒドは、ナメクジ類・カタツムリ類に対して速効的で高い効果を示します。
- 青色の粒剤ですので、散布したところがよくわかります。

適用病害虫名及び使用方法

2024年3月28日現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	10a当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	メタルデヒドを含む 農薬の総使用回数
かんきつ	ナメクジ類 カタツムリ類	1～3kg	収穫30日前まで	3回以内	株元散布	6回以内（散布及び 株元散布は合計3回以内）
非結球あぶらな科 葉 菜 類	ナメクジ類		収 穫 3 日 前 まで	2回以内		6回以内 （株元散布は2回以内）
キャベツ レ タ ス	ナメクジ類 カタツムリ類		収 穫 14 日 前 まで			6回以内（散布及び株元散布 は合計3回以内（但し、株元 散布は2回以内））
はくさい	ナメクジ類	3kg	収 穫 3 日 前 まで			6回以内 （株元散布は2回以内）
い ち ご			収 穫 前 日 まで			
セルリー		1～3kg	収 穫 3 日 前 まで			
アスパラガス			収 穫 前 日 まで			
ふ き	ナメクジ類	3kg	収 穫 7 日 前 まで	6回以内（散布及び 株元散布は合計2回以内）		
花き類・観葉植物	ナメクジ類 カタツムリ類	1～3kg	—	6回以内		6回以内

【使用上の注意事項】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 粒が崩れると効果が減少するので、灌水は長期間連続して直接かからないように注意してください。
- なるべく日中乾燥時の使用はさけ、ナメクジ、カタツムリ類が活動をはじめの夕刻に使用してください。また、雨上がりに使用すると効果的です。
- みずかけな（水掛菜）、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用してください。また、使用後14日間は入水しないでください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

【安全使用上の注意事項】

- 犬、猫などのペット類や家畜、家禽等が多量に食べると死亡するおそれがあるので、食べる可能性のある場所での保管及び使用はしないでください。

【保管上の注意事項】

- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

作物別の使用方法・注意事項

【いちご】

- 使用にあたっては、薬剤が果実に直接触れないよう注意してください。
- 定植時に持ち込んだ個体を防除する際は、定植後～マルチ被覆前に処理すると効果的です。
- 株元のマルチの隙間や、マルチと倒れた葉の陰に隠れた個体を防除する際は、粒がマルチの側面に落ちないように注意してください。

【キャベツ、はくさい、レタス】

- 結球開始以降に作物上から散布すると結球部に入り込み、異物混入となるおそれがあります。作物上から散布せず、株元に散布してください。

【非結球あぶらな科葉菜類】

- 圃場全体に処理を行う場合、作物の茎葉が生長してから散布を行うと生長点付近に薬剤が入り込み、異物混入となるおそれがありますので、2葉展開期までに散布を終えることをおすすめします。作物が大きくなり、収穫 3 日前までに使用する場合は、外周部からのナメクジ類の侵入を防ぐことを目的に最端列の株元に散布してください。また、その際に茎葉の隙間に薬剤が入り込まないように十分留意してご使用ください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 小児の手の届くところに置かないでください。

取扱い



サンケイ化学株式会社

東京本社 東京都台東区上野7丁目6-11 ☎03-3845-7951

東京営業部 埼玉県深谷市幡羅町1丁目13-1 ☎048-551-2122

大阪営業所 大阪市淀川区西中島2丁目14-6 ☎06-6305-5871